

北星学園大学（2019年リーグ戦4位）

時折小雨がぱらついた7月27日、月曜日。リモート講義の空き時間を利用して、北星学園大アメリカンフットボール部の主将でOLの竹田凌河とQB二階堂真登、WR嵐田勘太の4年生3人が、札幌市清田区の平岡公園に集まった。新型コロナウイルス対策で大学が課外活動を禁止して4カ月余。すでに再始動したライバル校の情勢を気にしながらも、我慢の個人練習を始めた。

昨秋は、QB二階堂がリーグ1位の937ヤードを投げて12TDを奪い、WR村屋隆侑（当時4年）が524ヤードのキャッチでリーディングレシーバーに輝くなど「伝統のパス攻撃」を存分に披露した。初戦では、二階堂の2TDパスなどで前年の覇者・北海学園大を試合終了26秒前まで22-19とリードしながら、無念の逆転負け。最終戦の札幌学院大戦も村屋が3TDキャッチを見せたが、惜しくも1TD差で敗戦。通算2勝3敗でリーグ戦を終えた。

昨季の悔しさと手応えを携えて迎えた今季だったが、2月28日の道の緊急事態宣言を機に、大学施設が閉鎖され、課外活動も中止に追い込まれた。4月から大学の講義が全面的にリモートで開始されたのに合わせて、アメフト部もリモートで部活を再開した。毎朝のリモートミーティングでは、昨秋のリーグ戦のビデオをチェックし、ライバル校のスカウティングも行う。「イメージを共有することが大事」と二階堂。

体力作りも欠かさない。竹田主将は「2月末から2年生以上の選手15人全員がジムに通い、公園などでランニングやダッシュを週4回繰り返している」という。嵐田は「去年の悔しさを忘れず、個人練習でもトレーニングの質を上げている」と力を込める。得意のパス攻撃を生かすためにQBとWRは、プレーごとのタイミングや体の使い方などイメージトレーニングに力を入れる。二階堂は「全体練習が再開したときに、すぐにプレーに入れるように準備する」という。レシーバーのリーダーの嵐田も「公園でキャッチボールしてコミュニケーションをとりながらパス感覚を合わせている」とうなずいた。

15人の選手のうち7人が4年生のアメフト部。SNSを使って新入生の勧誘も大事な取り組みだ。例年なら声かけと食事会などで新入生と触れ合った。今年はS

N Sで競技の魅力を発信するほか、メール作戦も展開する。他のクラブと協力して1年生向けのインスタグラム企画も用意する。

全員練習の再開はいつになるのか。6月下旬に大学側は「リモートで行っている講義が対面授業になればクラブ活動も解禁する」と各クラブに説明した。5月20日に発表された大学の予定では8月中旬までの前期はすべてリモート講義。竹田主将は「対面授業の気配はまだない」と残念そうに口にした。



【平岡公園で個人練習に励む北星学園大学アメリカンフットボール部員たち】